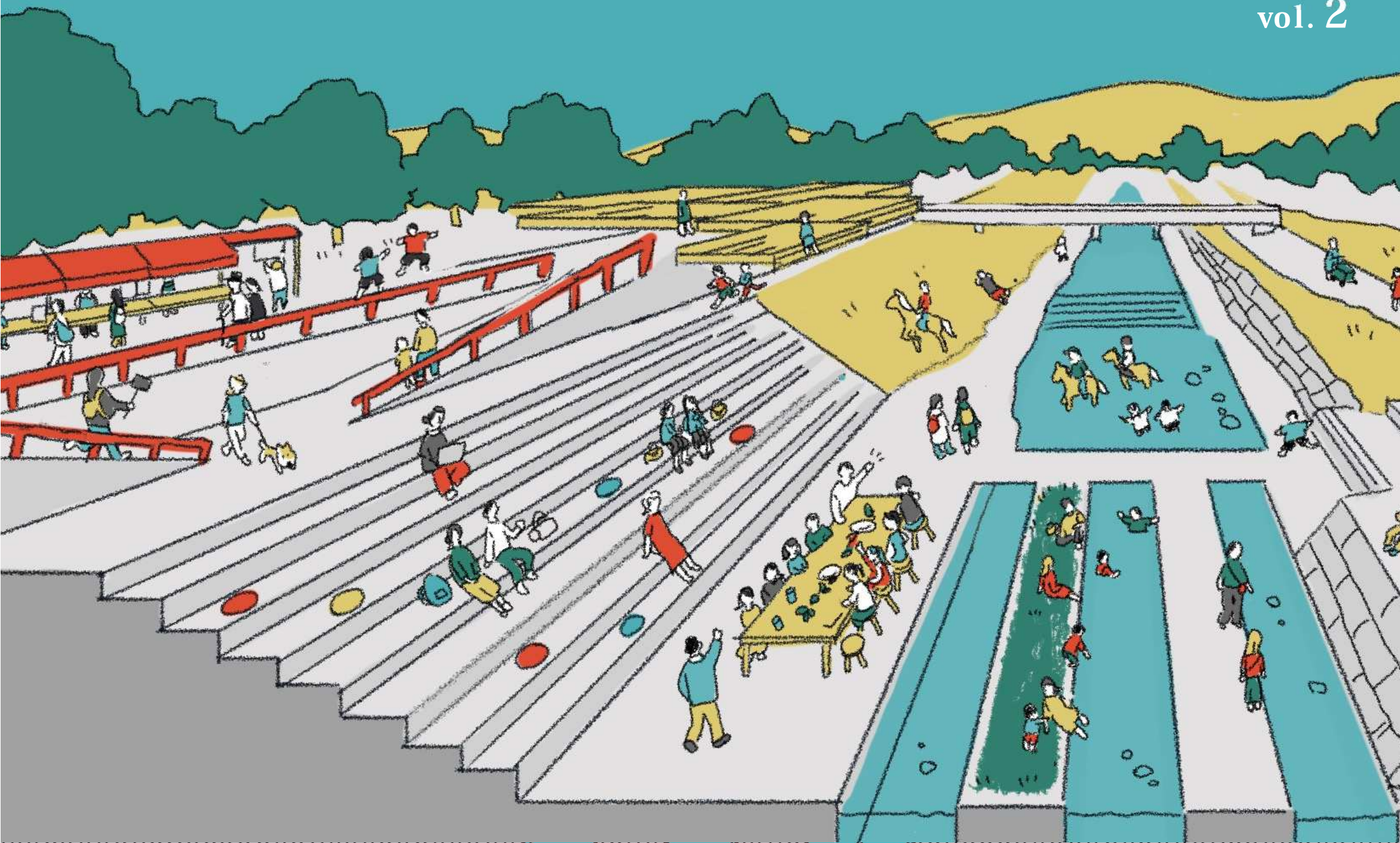


洛西グランドデザイン 2033

vol. 2



洛西グランドデザイン 2033

50年が経過しようとする「洛西ニュータウン」。その原点を辿ると、100年前に世界で初めて誕生した英国のニュータウン「レッチワース」にいきつきます。

レッチワースは、エベネザー・ハワード（1850-1928）が提唱した『田園都市論』に基づき創られた初のニュータウン。田畑や山林に囲まれた美しい「田園」と人々で賑わう「都市」の“結婚”こそが、郊外の理想郷と標榜され誕生しました。レッチワースはいまなお自然やガーデンの美しさと、上質な暮らしと、人々で賑わうスクエア（タウンセンター）が日常の風景として保たれています。

京都らしく、洛西らしく、伝統と、原点と、そして現在を見つめ、未来を想像した時、洛西ニュータウンはどういった姿が相応しいでしょうか。均質化してしまったニュータウンを見直した時、田園（大原野）と都市（タウンセンター）の結婚は、今の時代だからこそニュータウンの暮らしの本質を現しているのではないのでしょうか。

まちに住む人々が、ともに語り、食卓を囲み、交流し、まちをアップデートしていく。家の中の暮らしから、まち全体での暮らしへと変わっていく、未来の暮らし方を想像してみてください。西山を望む美しい景観、まちの中心に流れ憩いの場である小畑川、大原野の豊かな農の恵み、ニュータウンならではの豊かな公共空間を再評価し、時代に合わなくなったものを少しずつリニューアルしていく。

住む人と働く人、市民と行政が同じ目線で手を取り合って、ともにまちの未来を描いていく。「洛西ニュータウン」だからこそ実現できる未来（グランドデザイン）を共に創り出していきたいと考えています。

未来の洛西って〇〇かもしれない

2023年に京都市の若手職員を中心に10年後の洛西の姿を描き考えたビジョンをまとめた「洛西グランドデザイン2033vol.1」から1年。このvol.2は、市民の皆さんと一緒に、vol.1で描いた未来像を共有・検証しながら、公園や広場などのパブリックスペースの新しい使い方を模索し、バージョンアップを行ったものです。「未来の洛西ってこうなっていたら面白い!」「わたしにもこんなことできる?」と思い描きながらご覧ください。

グランドデザイン構成

02 策定のプロセスと4つのビジョン

P3-4

グランドデザイン策定に向けて行ってきたワークショップの過程や、そこから導き出された4つのビジョンについて掲載した章になります。ビジョンを踏まえて市民の皆さんと一緒に過ごした社会実験の様子も紹介しています。ここで生まれたビジョンに基づいて、ペルソナやエリアの未来の姿を考えました。

03 ペルソナ

P5-7

2033年、ビジョンが実現されたときに洛西地域に住んでいそうな人たちを紹介する章になります。未来の洛西地域における各世代の暮らし方、またそこからピックアップした4人のペルソナをご覧ください。

04 エリア

P8-14

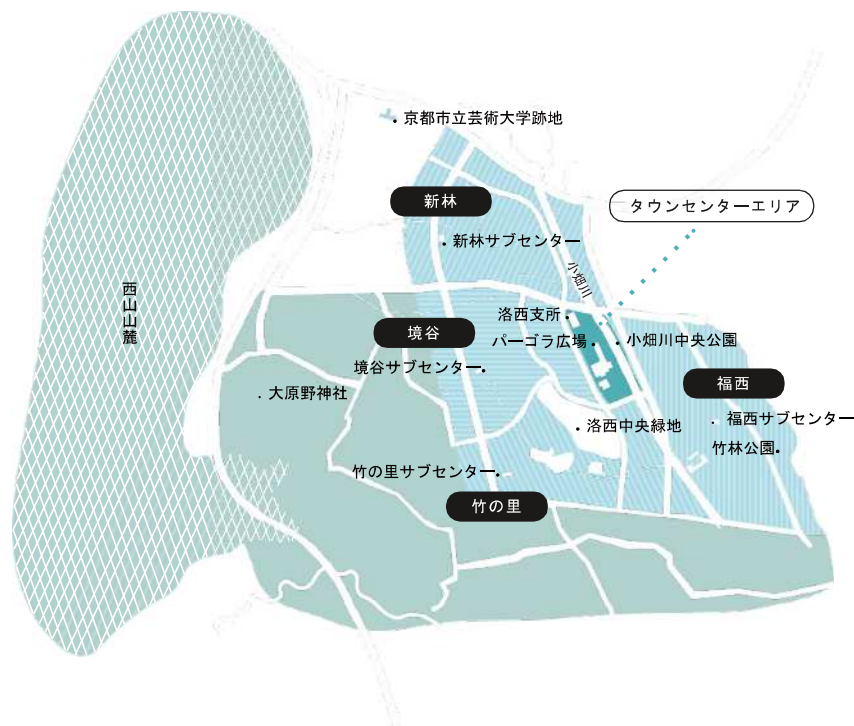
洛西地域の2033年のまちの姿を紹介する章になります。上記で設定したペルソナが洛西のまちなかでどんな過ごし方をしているかをご覧ください。

05 これから

P15-16

ビジョンを実現する過程で生まれるコミュニティの変化を描いた章になります。また、現在洛西で展開されている取組についても紹介しています。

ビジョンとペルソナから設定



洛西ニュータウンの成り立ち

洛西ニュータウンは昭和51年にまちびらきした、京都初のニュータウン。住宅不足の時代に、乱開発を防ぎ、秩序ある住宅街を生み出すことを目的に誕生しました。

小畑川の改修による親水空間の創出や多くの公園緑地の配置、完全歩車分離を目指した道路計画など、緑豊かで魅力的な住環境となるよう計画・開発が進められました。

洛西ニュータウンのあらまし

- まちの中央には、小畑川の親水空間に沿ってまちの中核エリアである「タウンセンター」が、まちを構成する4つの街区には、日常生活の拠点となる「サブセンター」が設けられています。
- 住環境としては、中央部分にUR団地や公営住宅などの中高層の団地が計画され、周辺部にはテラスハウスやゆとりある広さの戸建て住宅などの分譲住宅が立地しています。
- ニュータウンの中心には小畑川が流れ、市民の憩いの場として親しまれているほか、中央緑地や竹林公園などの多くの竹林が残されている点も特徴的です。また、ニュータウンに隣接して、魅力的な田園風景が残る大原野エリアが広がっています。

2023 洛西ビジョンづくりワークショップ

グランドデザイン策定にあたり、洛西ニュータウンの将来を考え、積極的に関わりを持ちたいと考えた京都市若手職員有志約30名が定期的に集まりワークショップ形式でアイデアを出し合いました。ビジョンづくりの参考になりそうな国内外の先進事例を持ちより学び、将来のビジョンの仮説を立て、検証（社会実験）をしながら4つの仮説ビジョンを考えました。



ワークショップ1

まちを知り仮説を立てる

洛西ニュータウンの現状を座学とフィールドワークでインプットした後、10年後の洛西は「もしかしたらこうなっている？」「もしかしたらこんな人が暮らしている？」という仮説を立て、将来をイメージしました。



ワークショップ2

ビジョンを設定し社会実験の準備をする

10年後の洛西ニュータウンのビジョンや取り組みを検討しました。また、この後に予定している社会実験でできそうなことについてもアイデアを出し合いました。ビジョンを描き、具体的な取り組みを考えました。



ビジョンを試す社会実験

未来の洛西って〇〇かもしれない

職員たちが考えた「未来の洛西って〇〇かもしれない」を実験的に試しました。ビジョンが実現されたときに起きていそうな取り組みを実験的に実施したり、考えたビジョンの方向性で良さそうかを市民のみなさんに尋ねるヒアリングなどを行いました。



ワークショップ3

振り返りとこれからの関わりを考える

これまでの研修を通じて考えたことや社会実験を通じて得た成果をもとにグランドデザインを検討しました。また、これまでの研修を振り返り、今後の市職員一人ひとりができる関わり方についても検討しました。



洛西グランドデザイン2033 vol.1を作成

2024 ビジョンを市民とともに考え、実践するワークショップ

洛西にお住まいの方からお勤めの方、これから洛西で何かをはじめたい方など、10代～80代までの幅広い層の市民と京都市若手職員が参加したワークショップ「RAKUSAI PUB. LAB.」を開催。「洛西グランドデザイン2033 vol.1」をベースに、5年後、10年後の洛西の将来像を考え参加者同士で対話したりしながら、理想の洛西の暮らしに向けた取組を企画、実践しました。



ワークショップ1

洛西ニュータウンの魅力とこれから

様々な年代や背景をもつみなさんと自己紹介をしました。その後、洛西グランドデザインvol.1を読み込み、未来の洛西ではどんな暮らしをしているかのアイデアを出し合いました。



ワークショップ2

理想の暮らしを考える

未来の洛西で「私ならこんな暮らしがしたい！」を考え、共通するビジョンのチームに分かれて、さらに意見交換をしました。洛西の地図上に、どこで、どんなことをしているかを書き込み、参加者で共有しました。



ワークショップ3

楽しく豊かに暮らすためのアイデアを考える

これまでのワークショップの結果から7つのテーマに分かれてチームをつくりました。未来の洛西に向けて、まずはいまできることが何かを考え、第4回ワークショップの後に予定している社会実験の企画を考えました。



ワークショップ4

社会実験の実施にむけた準備

社会実験に向けた準備回。当日のスケジュールや現地の場所確認をしたり、試作品をつくったりしました。足りない道具などはチームを越えて持ち寄るなどの連携も進み、全体の士気が高まりました。

社会実験を開催（詳細は4ページ）



ワークショップ5

社会実験を振り返りビジョンをアップデート

社会実験の振り返りを行い「実施してみてよかったこと」や「今後に向けての改善点」を出し合いました。また、「グランドデザインvol.2」の作成に向けて、自分たちの活動を通じて見えた新たな将来像についても考えました。



洛西グランドデザイン2033 vol.2を作成

未来の洛西って 〇〇かもしれない4つのビジョン

ワークショップや社会実験から見えた結果を
洛西のビジョンとして4つの方針で整理しました。

ビジョン①

まち全体が家のように 完結するまち

洛西のまちをひとつの家に見立てると、いまはもしかするとただの寝室(=ベットタウン)でしかないのかもしれませんが。将来、まちの真ん中にダイニングのような空間ができて、家族のようにみんなで食事ができたり、リビングのようにみんなで話せる場所ができればもっと豊かな暮らしになるのかもしれませんが。

ビジョン③

時代に応じた 新しい住み方

洛西ニュータウンができてからおよそ50年が経ち、まちびらき当時のライフスタイルから随分と変わりました。洛西を選び、長く住みたいと思えるまちであり続けるには、古いものをただ建て替えるだけでなく、いまの暮らしにあったものにアップデートしていく必要があるのかもしれませんが。

ビジョン②

利便性を追求しすぎない 新しい働き方

新型コロナウイルスの流行を経て働き方の見直しが行われ、オンライン会議などの技術が飛躍的に発達し、移動をせずとも働けるようになってきました。洛西ニュータウンの自然に囲まれた空間の中で、新しい働き方やまちに合った環境、仕組みが整えば、ニュータウンでゆったりと働くという暮らしが最先端なのかもしれません。

ビジョン④

人とエリアが交流し つながるまち

洛西ニュータウンは、4つの街区と、その周辺には大原野の豊かな自然が広がるまちの構成になっています。各街区にあるサブセンターや公園を中心に、さまざまな取組が展開されることにより、地域内の関係づくりや、まち全体をつなぐようなことができれば、洛西のコミュニティがより豊かになるのかもしれません。

4つのビジョンを検証した社会実験

4つのビジョンの実現に向かって、いまできることを社会実験として実施。2023年度は、市職員のみで開催し、職員ワークショップを通じて考えたことが本当に洛西に合っているのかを検証しました。2024年度は「RAKUSAI PUB.LAB.」参加者が実施。ビジョンを基に考えた「こうなったらいいな」と思う未来の洛西の風景を実験的に実現しました。

2023
市職員が実施

洛西のみんなで ひとつの食卓を囲む

小畑川の河川敷をまちのダイニングに見立ててみんながご飯を囲んで話せるような場所づくりをしました。



洛西に住む人たちの いまを記録する

洛西に住んだり、訪れたりする人たちがどんな暮らしをしているのか、日常を写真で記録しました。



2024
洛西市民や洛西と関係のある市民・市職員が実施

趣味や特技を披露するマルシェ

お茶を立てたり、雑貨を販売したり、出品者と来場者との交流を楽しみました。



食を通じた つながりをつくる

「みんなでつくってみんなで食べる」を目的に開催。羽釜でごはんを炊く様子に子ども達も興味津々でした。



小畑川を 働ける場所に

小畑川沿いの階段にコワーキングスペースをオープン。ダンボールでテーブルやドームなどをつくりました。



小畑川で ゆったり過ごす

小畑川のほとりで、持ち寄ったおもちゃで子どもたちが遊ぶなど穏やかで気持ちのいい時間を過ごしました。



竹ベンチで 交流できるまちに

ゆっくり座ってつながりが生まれるようにと竹ベンチを試作。会場のあちこちに憩いの場が生まれました。



洛西と大原野を つなぐ

大原野と洛西エリアをつなげるようにと、大原野の田園風景の中で焼き芋を楽しむプログラムを開催。



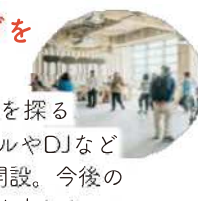
洛西のみんなで情 報を集めて発信

洛西の地図を広げ、来場された方との対話を楽しみながらおすすめスポットなどを紹介しました。



空き空間でパブを 楽しむ

空き店舗の可能性を探るべくクラフトビールやDJなどが楽しめるパブを開設。今後の活用アイデアを集めました。



こんな人が住んでいるかもしれない

4つのビジョンが実現した洛西は、子どもからお年寄りまで、暮らしを楽しむ人々がまちなかを上手く使いこなしているかもしれません。

- ビジョン① まち全体が家のように完結するまち
- ビジョン② 利便性を追求しすぎない新しい働き
- 方ビジョン③ 時代に応じた新しい住み方
- ビジョン④ 人とエリアが交流しつなげるまち

はる 8歳

大人との交流ができる
暮らしを楽しむ



#パブリックスペース
#交流

スティーブン 22歳

表現する
暮らしを楽しむ



#アート
#クリエイター

しんじ 34歳

職場とまちを
シームレスに楽しむ



#ランニング
#アフターファイブ

あやの 46歳

職住近接の
暮らしを楽しむ



#ノマドワーカー
#起業・副業

たかし 58歳

ふらっと出かけられる
暮らしを楽しむ



#充実した休日
#DIY

ゆうじ 16歳

アーバンスポーツが
できる暮らしを楽しむ



#趣味でつながる仲間
#ダンス

じゅん 28歳

みんなで食卓を囲む
暮らしを楽しむ



#食
#タイムシェア

リア 38歳

子どもと向き合う
暮らしを楽しむ



#洛西ではたらく
#学び合い

けんた 48歳

地元食材を活用した
暮らしを楽しむ



#地産地消
#クラフトビール

のぼる 72歳

シェアする
暮らしを楽しむ



#農とコミュニティ
#セカンドライフ



#洛西ではたらく

#サポートし合える子育て

#学び合い

洛西生まれの夫の影響で新林地区に移住。娘が自然豊かな環境で育つことを優先してこの地を選んだ。日課は緑道沿いを散歩すること。週末にはタウンセンターで家族と一緒に買い物を楽しむ。また、娘が通う小学校では地域の大人や民間団体による授業があり、自身も「親子で作るアートワークショップ」の講師を務めている。最近では、団地内のシェアキッチンを使った「親子料理教室」の立ち上げに参加し、地域のつながりを深めている。

プロフィール



住まい

新林地区の分譲団地に住む。居住歴10年。



家族

夫、小学生の娘、飼い犬と暮らしている。38歳



活動

地元のタウンセンターのカフェで働きながら、地域イベントの企画・運営に関わっている。

一日の過ごし方

- 6:00 • 起床
- 7:00 • 朝食
- 8:00 • 子どもを見送る
- 9:00 •
- 10:00 家事をした後に職場に出勤
- 11:00 タウンセンターのカフェで働く
- 12:00 •
- 13:00 タウンセンターのマルシェでランチ
- 14:00 •
- 15:00 親子で作るアートワークショップの講師を行う
- 16:00 • 子ども帰宅
- 17:00 •
- 18:00 みんなで晩ごはんをつくる会で夕食づくり
- 19:00 •
- 20:00
- 21:00
- 22:00 • 就寝

プロフィール



住まい

境谷地区のグループホームに住む。居住歴46年。



家族

妻と同世代の友人たちとグループホームに住んでいる。72歳



活動

退職後、地域のシェア農園や環境教育活動に積極的に参加している。

一日の過ごし方

- 6:00 • 起床。日課のジョギング
- 7:00 •
- 8:00 農園で野菜のお手入れ。農ライフ仲間と会話を楽しむ
- 9:00 •
- 10:00 マルシェに出店
- 11:00 自慢の野菜を提供しながら自身もマルシェのランチで舌鼓を打つ
- 12:00 •
- 13:00
- 14:00 •
- 15:00 小畑川周辺で草刈り活動。若手と一緒にキレイになる自分の街を楽しむ
- 16:00 •
- 17:00 •
- 18:00
- 19:00 • 夕食
- 20:00
- 21:00
- 22:00 • 就寝



#農とコミュニティ

#シェアモビリティ

#セカンドライフ

長年住み慣れた境谷地区を拠点に、地域コミュニティの一員として充実したセカンドライフを送っている。特に、シェア農園では妻とともに野菜作りを楽しみ、地元のイベントで収穫物を提供するなど、地域活性化に貢献。環境教育活動では、団地内の若い世代とも連携しながら、次世代に洛西の自然の魅力を伝えることが喜びとなっている。また、最近はサブセンターの会館を使って開催される映画上映会で、昔の映像を提供するなど文化交流にも携わっている。

職住近接の暮らしを楽しむ

あやの



#職住近接

#ノマドワーカー

#起業・副業

地方都市からの移住者で、仕事の利便性を考えつつも、自然が多い洛西の環境に惹かれ移住を決めた。普段は自宅ですべての仕事をこなしているが、天気の良い日には川辺や公園の自然に囲われた環境で仕事をするのがお気に入り。休みの日にはタウンセンターで行われるイベントを映像に収めてSNSに発信したり、個人で制作した動画を地域の上映会で発表することもある。最近では、自由なノマドワークスタイルを活かし、地域の若いクリエイターたちとオンラインでコラボする場をつくり、地域の魅力発信に力を入れている。

プロフィール



住まい

竹の里地区の市営住宅（賃貸）に住む。居住歴16年。



家族

単身暮らし。メダカを飼っている。46歳。



活動

ITエンジニアとして働き、リモートワークが中心。趣味で映像制作をしている。

一日の過ごし方

6:00
7:00 • 起床
8:00 • 日課である小畑川にお散歩
9:00
10:00 タウンセンターでコワーキング
11:00
12:00
13:00 タウンセンターでランチ
14:00
15:00
16:00 仕事の続き。
17:00 気晴らしに川辺や公園の自然に囲われた中でお仕事
18:00
19:00 週末の動画上映会に向けた動画の編集作業。クラフト
20:00 ビールを片手に仲間と一緒に発表に向けて準備中。
21:00
22:00 • 就寝

プロフィール



住まい

大原野の古民家シェアハウスに住む。居住歴4年。



家族

シェアハウスで友人3人との共同生活。馬の世話もしている。22歳。



活動

大原野のアートスタジオでバイトをしながら、市内の大学に通っている。

一日の過ごし方

6:00
7:00 起床。馬のお世話をを行う
8:00
9:00
10:00
11:00 市内の大学で講義を受ける
12:00
13:00
14:00
15:00
16:00 地域のクリエイター仲間と交流し
17:00 感化されながら自身の活動のインスピレーションを得る。
18:00
19:00 自身が手掛けたオリジナルの
20:00 クラフトビールを片手に仲間と乾杯。ラクセーナのパブで談笑
21:00
22:00
23:00 • 就寝

ステイブン



#クリエイター

#アート

#留学生

表現する暮らしを楽しむ

大原野の古民家に魅了され移住を決意。市内の大学に通いながら、アートスタジオでバイトをしつつ、馬の世話をする日々。独自の視点で空間やアートをプロデュースし、ファッション、手仕事、デジタルアートを融合させたプロジェクトを発信している。月に一度、地元の職人とコラボし、伝統技術と現代アートをつなぐワークショップを企画。シェアハウスの庭で馬と触れ合えるイベントも主催し、都市と自然の新たな関係性を模索する。オンラインとリアルを横断するクリエイションを展開中。

水と育むニュータウン

小畑川を挟み良好な住環境が整うニュータウン。他のニュータウンにはない特徴である「水」とともに未来を「育む」自然豊かなまちとしての発展を目指します。

人々が集まるまちの結節点 センタースクエア

Center Square

タウンセンターは、50年のときを経て、まちの中心の「Center Square」へ。

商業施設のリニューアルや、バスターミナル、小畑川 中央公園の再整備など、子育てもしやすく、様々な人が出会える場を目指します。

リバーサイドにあるスクエアとして洛西ニュータウンならではの立地と魅力を活かし、時代に合った中核エリアへと生まれ変わること、にぎわいの担保と、人々が交差する結節点として、暮らしのあらゆるシーンを支え、生活の質を高められるエリア再編を目指します。

人々が集い、囲み、語り、交流できるリバーサイド

River Side

洛西ニュータウンの象徴でもある小畑川。まちの中心を縦断する河川空間を、住む人々や訪れた人々が集い、囲み、語り、交流できる River Side として、再定義、再評価します。

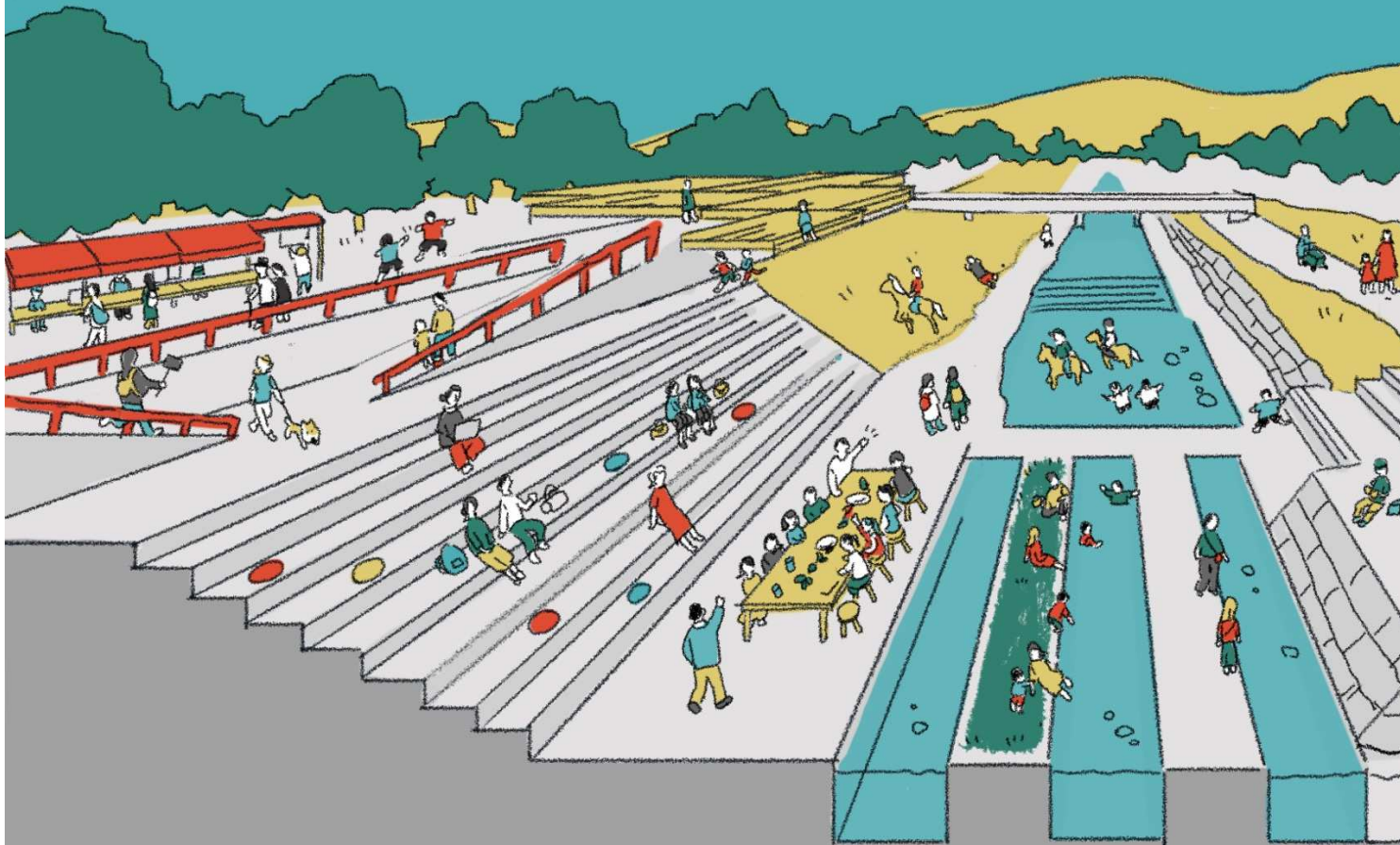
水辺があるからこそ実現できる、美しく丁寧で活気あるニュータウン。洛西ニュータウンの代名詞として、気持ちのいい河川敷として、使い方の提案や魅力発信を強化することを目指します。



暮らしに隣接した水辺のある暮らし

小畑川河川敷エリア

洛西ニュータウンの中心にある親水スポット。水を見る、感じる、香る、触る、五感すべてが心地よく刺激される。広場や公園から眺める水辺の風景が美しい。階段には仮設のテーブルやベンチが置かれ、音楽を奏でたり、みんなで食卓を囲んだり、水遊びをしたり、ワークをしたり、河川敷をランニングして汗を流したり、暮らしの様々なシーンで使いこなすことができる、洛西を象徴するRiver Sideエリア。



○子どもやペットと一緒に水遊び（リア）

自宅から子どもとペットを連れて散歩に。ここに来ると近所の子供たちもいっぱい集まっていて、子どももペットも川で水遊びを楽しんでいる。家から歩いて来られて、安全に遊べる親水空間は何よりの宝物だと感じている。

○残したい美しい風景（のぼる）

河川敷の自主的な清掃活動に長年取り組んできた。先月、ラクセーナのパブで出会った若者のグループが草刈りに参加してくれるようになり、広がる輪が嬉しい。ますますきれいになった河川敷で遊ぶ子どもたちを見ると、元気が出る。

○緑や水を感じながらリモートワーク（あやの）

平日の朝から、河川敷の階段で広場に新設されたラボで借りた簡易デスクセットを広げてパソコンでリモートワークをしている。心地よい水や緑に囲まれながら、ワーカー同士の偶然の出会いで新しいアイデアも生まれ、刺激になる。

○イギリスへの発信（スティーブン）

イギリスの日常であるアフタヌーンティーを小畑川で楽しむ。洛西で採れた茶葉で紅茶を作り、自家製スコーンを片手に草を食む馬を眺めている。京都のニュータウンの新しいライフスタイルを発信すると母国の友人に反響があり、顔がほころぶ。

○持ち寄り料理でダイニングアウト（じゅん）

金曜日の夕方から開催される、持ち寄りパーティー「ダイニングアウト」に参加するのが何より楽しみ。大原野で採れた旬の食材を持ち寄り、アイデアを出し合いながら友人たちと料理をつくり、一つのテーブルを囲む時間が豊かだと思う。

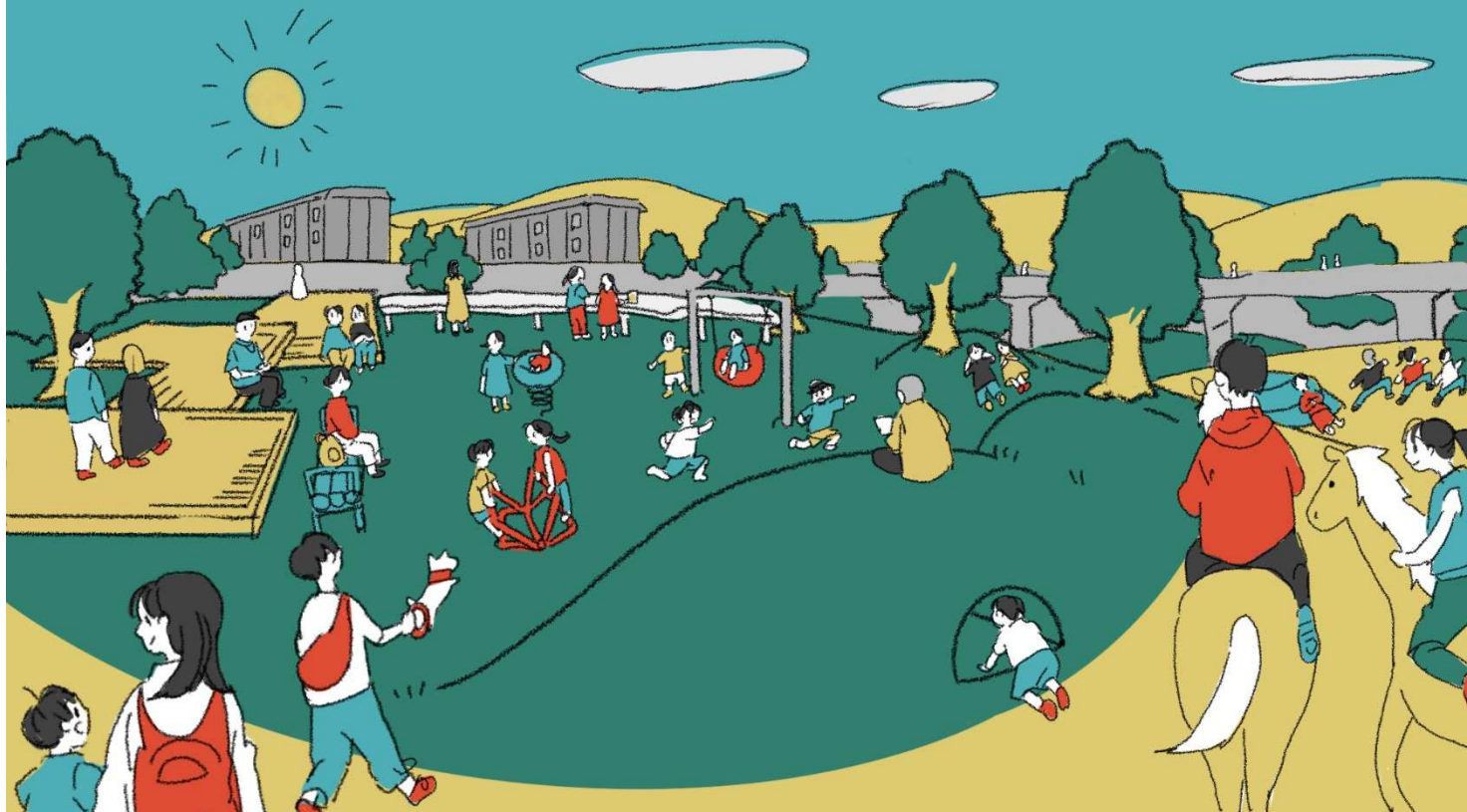
○身近にアウトドア（しんじ）

天気の良い休日の昼下がり、軽くランニングで汗を流した後、河川敷に張り出してきたデッキに腰掛け、パーゴラ広場のマルシェで買ったサンドイッチとコーヒーでランチ休憩を楽しんでいる。区役所で働きながら、自然を感じられる環境が気に入っている。

川を見ながら芝生に転がる暮らし

中央公園エリア

小畑川と商業施設に挟まれた、気持ちのいい緑の空間。日陰でおしゃべりをしたり、芝生の小山で転がったり、インクルーシブ遊具で遊んだり、カウンターテーブル越しに景色を眺めたり。川や団地が見通せる気持ちよく開けた植栽帯と、ゆくりと作られたウッドデッキやファニチャーが居心地の良さを醸し出す。季節に応じて様々な遊びや体験が行える、まちの中央にある、みんなの癒しのサードプレイス。



○小さい子どもに絵本の読み聞かせ（リア）

平日の昼間は、公園に絵本を持ち寄り、芝生の上で子どもたちを集め、絵本の読み聞かせをしている。インクルーシブ遊具はどんな子どもにも大人気。親子でゆったり滞在できて、自分の得意なことを年齢に関係なく披露できる環境が大好きだ。

○本をきっかけとした友人作り（のぼる）

簡単に操作できる電動モビリティで公園にやってきた。珈琲を飲みながらデッキに座り読書をする時間の過ごし方が気に入っている。みんなでおすすめる本を持ち寄って私設の移動図書館をつくったり、年齢に関係なく友達ができるのが醍醐味。

○ビールを片手にのんびり暮らし（あやの）

河川敷でのリモートワークが終わった平日の夕方、クリエイター仲間を待ちながら、カウンターテーブルでクラフトビールを片手に川のせせらぎに耳を澄ませている。家と働く場の垣根がなく暮らせる日常が自分には合っていると思う。

○人と動物との共生（スティーブン）

企業とタイアップしてアート性の高い遊具の設置に協力している。遊具も使いながら大道芸やアートパフォーマンスをしていると子どもたちに囲まれて楽しい。ホースセラピーの資格も活かして、公園を訪れた人々と動物を繋ぐ活動にも力を入れている。

○学校帰りの聖地（はる）

学校帰りにみんなで集まる秘密基地。坂すべりの競争をしたり、ぼにっとした遊具でねころんだり。絵本を読んでくれる人やすごい芸を見せてくれる人もいて、ここに来ると色々な大人が色々なことを教えてくれてラッキーだと思う。

○地元素材でDIY（たかし）

仲間と一緒に放置竹林の竹を使い、ベンチを製作するワークショップを開催している。参加者が組み立てからペインティングまで行い完成した竹ベンチはその場で持ち帰ることができる。地域の中で資源が循環する社会を目指している。

パーゴラ広場周辺エリア

A vibrant illustration of a night market scene. The sky is dark blue with a crescent moon and stars. In the foreground, a sign reads "Bio Market today EVENT". People are gathered around various stalls, including food vendors with red awnings and a man playing a guitar. A large crowd of children and adults is seen, some sitting on the ground, others standing. The background features green hills and a body of water.

広場に流れる音楽に合わせて、即興のブレイクダンスを披露している。日頃は大原野の大自然に囲まれた生活環境にインスピレーションを受けていて、時々大勢の人々に囲まれて、アーティストとして表現活動ができるこの場所がお気に入りだ。

文化と商いが交じり合う暮らし

商業施設エリア

小畑川をパリのセーヌ川に見立て「ラクセーヌ」と名付けられた、文化と商いが融合するハレの場。地域の方々が地域のことを五感で楽しみながら、様々な商いが生まれて広がっていく。大原野の素材で作られるビールを楽しむパブや気軽に仕事ができるカフェ、地域のアートを楽しむギャラリー、情報交換をするラボなどが交じり合い、働く場もあり非日常を楽しむ場にもなる。屋外で使える貸出用品なども備えられた、多様なサービスがクロスするみんなのマーケット。

○カフェでシェフ&パティシエ（リア）

カフェで地元の野菜を使った料理を提供している。週末の広場でのマルシェをきっかけに平日もこの場所で働くことになった。今まで磨いてきた料理の腕を活かした仕事に就くことができ、日々充実感を感じている。

○カフェで過ごすバスの待ち時間（のぼる）

駅に向かうバスの出発までの待ち時間にふらっとカフェに立ち寄って、コーヒーを淹れてもらった。屋外のカウンターテーブルでほっと一息。学校帰りのこどもたちを眺めているとバス待ちの時間もあっという間に感じる。

○ワーキングスペースの運営（あやの）

エンジニアの仕事をしながら、ワークスペースの運営をしている。訪れる人と何気ない会話を楽しみながらも、起業やまちでの活動のアドバイスをしている。人と人がつながることで、自分の仕事にも好循環が生まれている。

○未来を見据えて起業相談（スティーブン）

洛西でアートに関わる仕事がしたいと思って、ワークスペースで開催されている起業相談にやって来た。自身がプロデュースしたクラフトビールを片手に、起業について語り合っていると、テーブルに人が集まってきて、アイデアが飛び交っている。

○パブでDJ（じゅん）

自身が選んだ曲が場の雰囲気を作る。ここでは、シニアカーを押すお年寄りの隣で大学生が起業について相談し、託児スペースの横でママがビールを片手に談笑している。こうした他の地域にない光景を演出できる時間がたまらなく好きだ。

○新たな活動拠点で情報発信（たかし）

SNSで洛西の情報を発信している。パブに情報板を作って、まちの人から情報を集めている。人も情報も集まるので、発信の拠点としてピッタリだ。自分の発信した情報をもとに人が繋がって新たなことが始まることにワクワクしている。

01

はじめに

02

ビジョン

03

ペルソナ

04

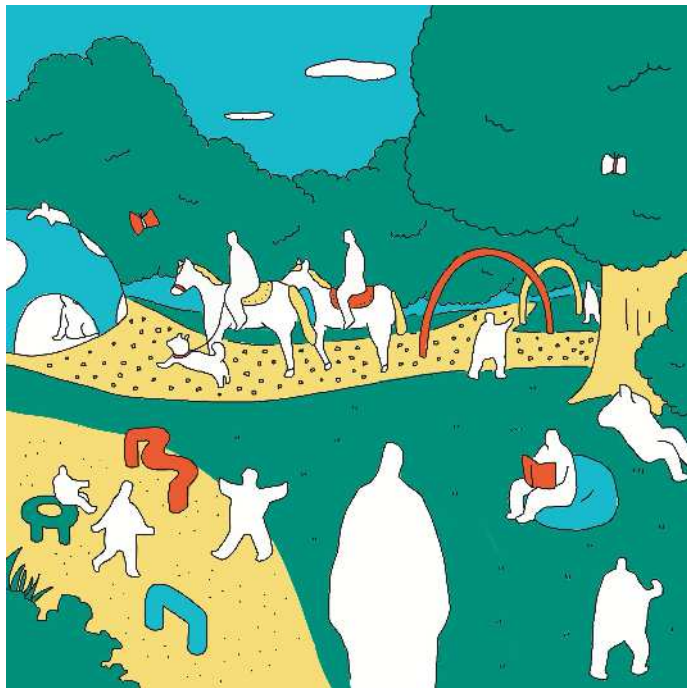
エリア

05

これから

洛西の10年後の風景

京都の歴史や自然の中で育まれてきた生活文化や精神性、コミュニティなどの本質的な価値を継承するとともに、本来の田園都市が目指した暮らし方や価値観も大切にして、京都の田園都市である洛西ならではの未来志向の暮らし方を提案しています。市民も事業者も行政も誰もがみな平等かつ前向きな姿勢で未来を紡いでいくことを想定しています。



公園/パーク

子どもやお年寄りに優しいのはもちろんのこと、若者、子育て世代から旅行者、ペット、動物に至るまで、みんなに優しい公共空間へ。何かを禁止することを優先するのではなく、地域みんなの知恵と工夫で、誰もが集いやすい場所に。例えば、仮設の建築物で季節毎にレストランが営まれたり、ペットを連れた人々が集う場をつくったり。地域の人々で運営しながら楽しめる、公園がみんなの庭となるような暮らし方へ。

@ベンチマーク事例

パリの『ラヴィレット公園』と『Restaurant VENTRUS』

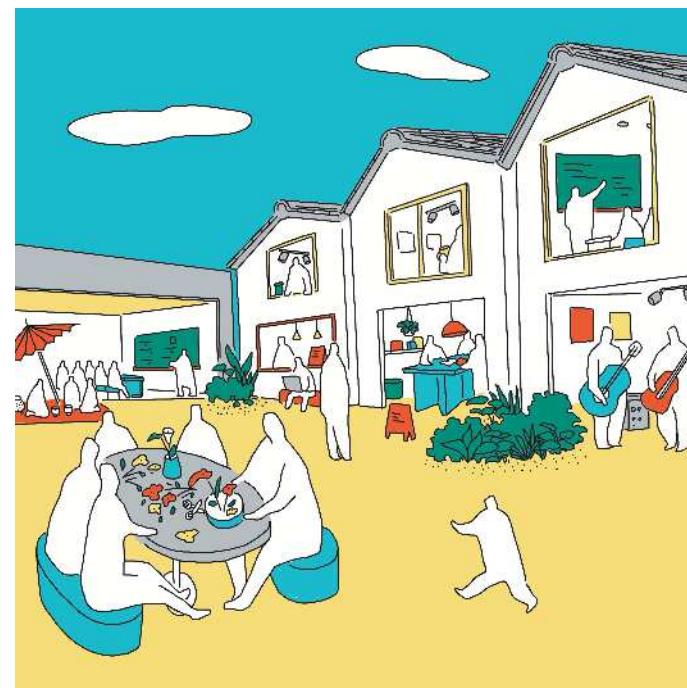


サブセンター/サブスクエア

住まいに身近なサブセンターは、みんなの困りごとに寄り添い、助け合える寄り合いの場へ。髪を切るのが得意な人が散髪をしてあげたお礼に、お菓子作りが得意な方がパイをプレゼントしたり、放課後のこどものおやつを作ってあげたお礼に、最新の電子機器の使い方を教わったり。年齢やハンデを補い合える優しさに溢れた中間地点に。お金ではなく、得意なことや好きなことの交換で生活が成り立つ暮らし方へ。

@ベンチマーク事例

ブリュッセルの『近隣契約』とブリストルの『Living Lab』

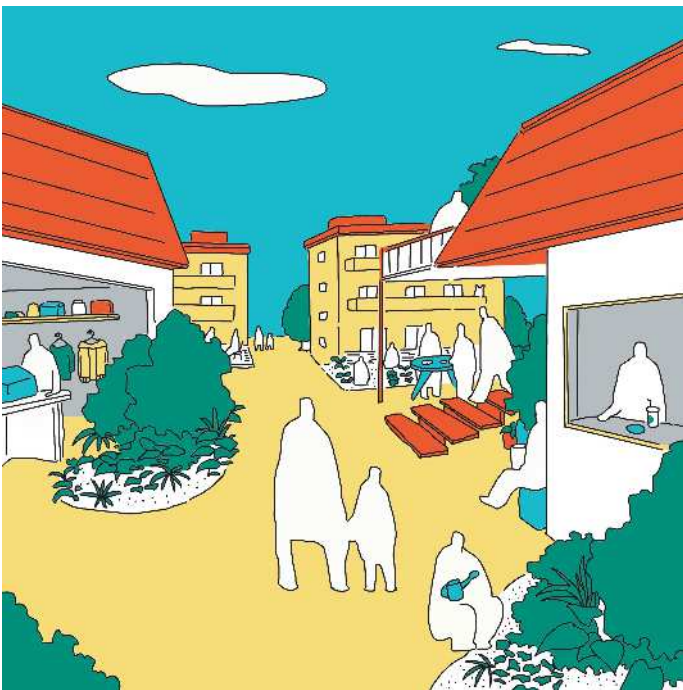


学校/スクール

義務教育施設の統廃合を背景に生まれる学校跡地は、地域のまちづくりを担う場へ。例えば、地域住民だけでなく観光客などの来訪者にも開かれた、年齢や国籍や言語などの垣根を超えた多様な「学び」や「教え合い」新たな「チャレンジ」ができる場所として活用するなど、中と外が交じり合うハブとなる拠点化に。洛西ニュータウンや住区の真ん中にある学校だからこそ実現できる、新しい体験に出会うことができる暮らし方へ。

@ベンチマーク事例

コペンハーゲンの『フォルケホイスコーレ』



団地/タウン

戸建住宅、団地、テラスハウス、マンションなど、個々の住宅の「庭」や「共用部」を、これまでよりもほんの少し地域に開き、誰かだけの場所ではなく、みんなの暮らしの質を高める場所に。みんなが庭で同じ果物を育ててまちの特産品にしたり、団地の共用部分で学生がカフェを運営したり。住むだけの場所を超えて、食卓であり、井戸端であり、遊び場でもある、「住む」から「暮らす」へとマインドチェンジした、みんなでシェアする暮らし方へ。

@ベンチマーク事例

ライネフェルデの『団地再生』



大原野/ガーデン

西山山麓に多くの古墳や寺社仏閣が点在し、平安京以前の歴史を受け継ぎながらも、豊かな里山の原風景を残す大原野。この唯一無二の魅力に惹かれ、クリエイターなど様々なスキルを持つ移住者も増えている。大原野の豊かな田園の風景や営みを守りつつ、洛西ニュータウンの都市的な暮らしと一体でひとつのまちと捉えることで、本来の田園都市の理想と理念を体現できる暮らし方へ。

@ベンチマーク事例

ポートランドの『農園』と『Farmers Market』



竹林

特産品としての「タケノコ」の生産地であり、洛西を象徴するランドスケープとなっている貴重な緑地空間。生産者の後継者不足により手入れが行き届きにくくなった竹林を活用し、地域住民や観光客が季節ごとの維持管理や収穫作業を体験する場や、イベント空間の場とすることで、身近で携わりやすい公共空間へ。間伐した竹でベンチ作りワークショップが行われたり、竹炭で焼き芋を楽しんだり、洛西ならではの季節と食を楽しむ暮らし方へ。

@ベンチマーク事例

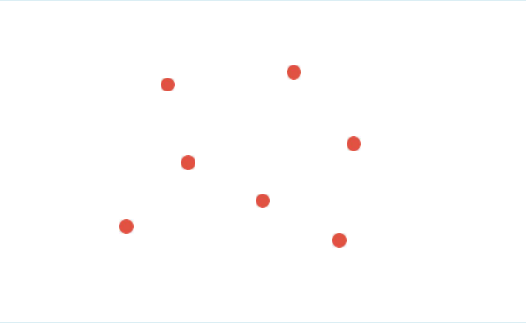
パリの『共同菜園』と『La REcyclerie』

2033 年に向けた洛西の展開フロー

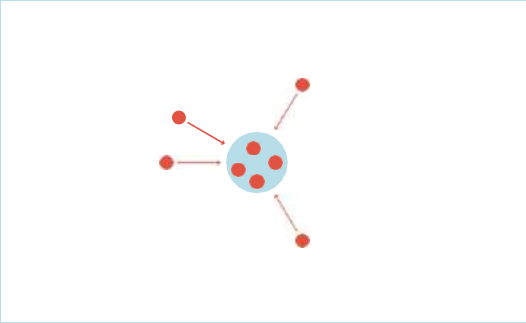
SOFT

2023

まちへの想いをを持った人が
行動に移し始める

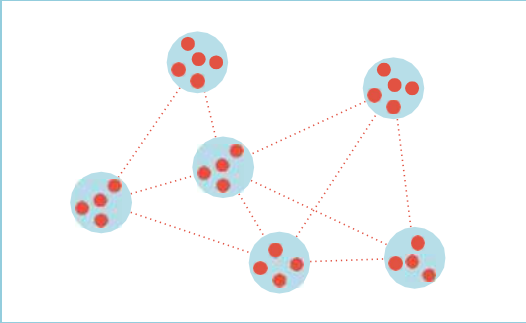


個々の活動が共感を生み
興味型のコミュニティが広がる



2033

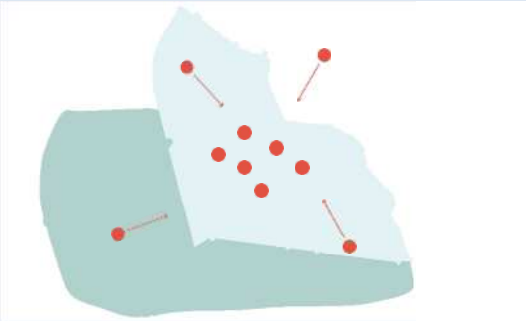
様々なプレイヤーが入り混じり合い
洛西の新しい魅力を創出



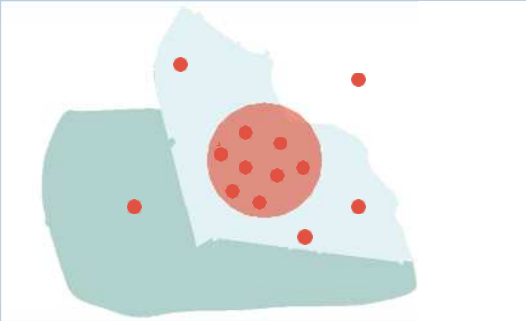
HARD

2024

タウンセンターを実験場にして
まちへの想いを試してみる

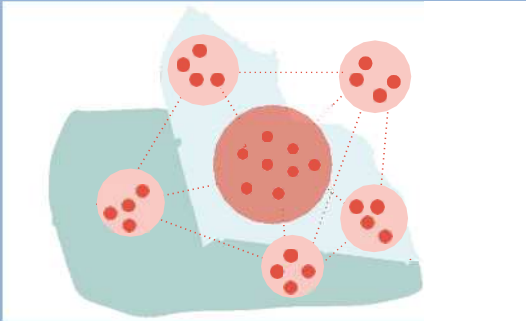


タウンセンターがまちの結節点
「Center Square」にリノベーション



2033

描いた風景が各所で実現
洛西全体の姿が変わる



現在実施している取組み

洛西のまちづくりでは、多様な主体の参画を目指して取り組んでいます。

市営住宅の空き住戸活用



コモンスペースとしての活用

市営住宅の空き住戸を、若者・子育て世帯向けの民間賃貸住宅として活用。東竹の里市営住宅では、団地自治会と連携して地域活性化に向けた様々な社会実験を企画・実施中。

市営住宅児童遊園のアートペイントPJ



アートペイント

市営住宅団地内の児童遊園にある遊具を対象に、洛西地域に在住のアーティストや団地内の住民と一緒に、ワークショップ形式でアートペイントを行うプロジェクトを実施中。

地元企業との連携



竹林キャンプ

地元企業と連携し、プロジェクションマッピングやドローンショー、放置竹林を活用した竹林キャンプ、竹林Meet Upイベントを実施。

共創企業との連携



せせらぎシアター

UR都市機構と包括連携協定を締結し、若者・子育て世帯の移住・定住促進などの具体的な取組を先行実施。小畑川河川敷を活用して、映画上映会「せせらぎシアター」を開催。

まちづくりプロジェクト



RAKUSAI Pub. Lab.

市民や学生、事業者の皆様などを募集し、まちづくりの専門家が伴走支援（他都市の先行事例等の紹介、参加者同士のワークショップなど）を行いながら、まちづくりイベント等の企画から実施、運営までを行う。

商業施設の空き店舗活用



PUB.LIV.

RAKUSAI Pub. Lab.の社会実験と同時開催で、ラッセーナも空き店舗スペースを使ったPUB（社交の場）を創出。クラフトビールやDJに合わせたダンスパフォーマンスなどで、これからの活用方法を模索。



#4DAEB5



#307F6F



#DECA70



#DF4C34

洛西グランドデザイン2033は
主に4色をテーマカラーとして策定しています

主 宰 京都市都市計画局住宅室住宅政策課
制 作 日 2025年3月31日
企画・製作 東邦レオ・COLTS
編集・協力 studio-L・オフィスキャンプ・京都市職員PJT

